

2025年度 事業報告書



第**61**期

2025. 1. 1 ~ 2025. 12. 31



国立京都国際会館
KYOTO INTERNATIONAL CONFERENCE CENTER

目次

I 事業の概況

1. 総論	P.1
2. 実績	P.1
3. 収支の概略	P.2
4. 2025年に開催された主な催事	P.2
5. 主な取り組み	P.5
(1) 当年度の催事誘致と開催サポート	P.5
(2) 中期的な誘致強化	P.6
(3) 中長期保全計画の実施	P.7～8
(4) 法人運営について	P.9～11

II 法人の概況

1. 法人概要	P.12
2. 理事会及び評議員会等に関する事項	P.13
(1) 理事会及び役員に関する事項	P.13
(2) 評議員会及び評議員に関する事項	P.14
(3) 役員等候補選出委員会及び委員に関する事項	P.15

III 法人管理	P.16～18
----------	---------

I 事業の概況

1. 総論

2025年度は、光熱費の高騰や老朽設備修繕の増加、ニューホール拡張工事の進捗不透明などの影響により、当初約3.5億円の赤字を見込む厳しい状況であった。これに対し、3か年計画「ニューホール完成を見据えた今後3年間の取り組み強化」に基づき、収入確保と支出抑制の両面から全職員一丸となって取り組んだ。

その結果、新規案件や海外案件をはじめとした積極的な誘致活動により開催件数は205件となり、コロナ禍後初の200件台へ回復、昨年度に遜色ない売上を確保した。加えて、天皇皇后両陛下ご臨席の「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）第22回年次総会」や、秋篠宮文仁皇嗣殿下・同妃紀子殿下ご臨席の「第15回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会・第49回日本口蓋裂学会総会・学術集会」をはじめ、国内外から注目を集める催事が開催され、当館の社会的評価向上にもつながった。

施設管理運営面では、空調運用を中心にエネルギー使用の最適化を進め、コスト抑制を徹底した。あわせて、基幹設備の計画的補修や環境負荷低減に資する改修・更新、大型プロジェクターの更新等を実施し、持続可能な運営基盤の強化と利用環境の向上を図った。

自主企画においても、「乾杯の夕べ」の3日間開催や「京都大恐竜博」の実施などにより企画内容の充実を図り、地域とのつながりを深めるとともに収益確保にも寄与した。

これらの結果、赤字は約800万円に縮小した。2026年度は創立60周年を迎え、取り組み強化の3か年計画の着実な推進により、運営基盤の一層の強化と国際会議場のパイオニアとしての使命を果たしていく。

2. 実績

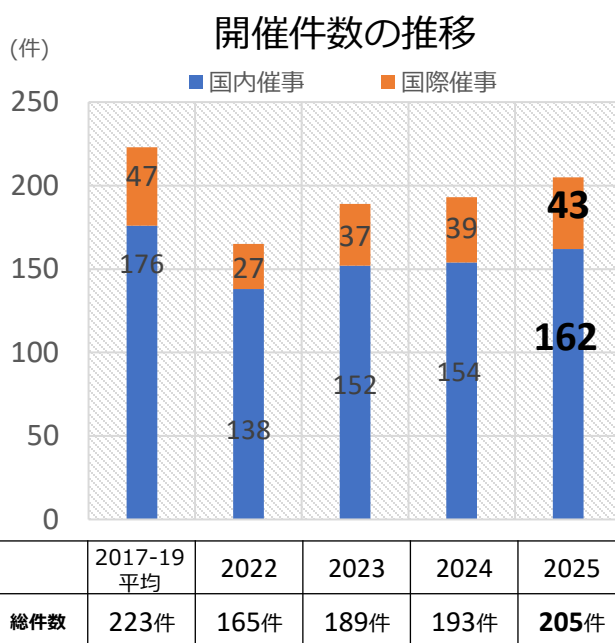
当初は、工事予定箇所の予約を制限していたことや、医学会の周期的要因等により、総開催件数は140件にとどまる厳しい見通しとなっていた。

その後、工期変更により、予約制限を一部解除し、新規案件獲得に向けた営業体制の強化を図った。その結果、**開催件数は205件**となり、**コロナ禍以降初めて200件台へ回復した。**

売上面では昨年並となる1,805百万円となり、**予算比405百万円の増加**となった。**支出面では1,814百万円**となり、**光熱費等のコスト抑制の効果もあり予算比69百万円の増加**に抑えた。

結果として、**経常収支は約8百万円の赤字に留め、予算比で337百万円の改善**となった。

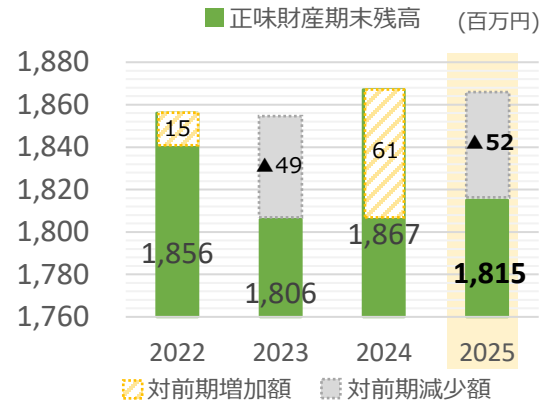
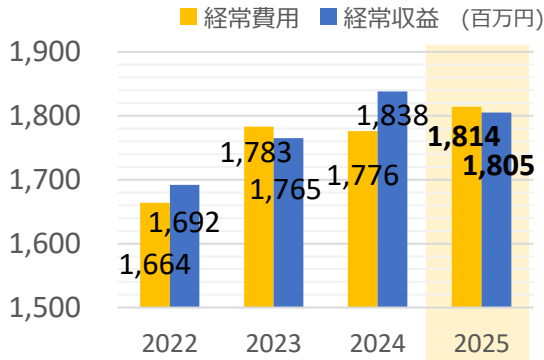
なお、固定資産の除却や法人税等を含めた**税引後の当期経常増減額は52百万円の減額**となる。



3. 収支の概略

(百万円)

	2024年実績	2025年予算	2025年実績
会場使用料収入	1,723	1,300	1,672
その他収入	115	100	132
収入計	1,838	1,400	1,805
光熱費	180	200	170
その他支出	1,596	1,545	1,644
支出計	1,776	1,745	1,814
経常収支計	62	△ 345	△ 8.7



4. 2025年に開催された主な催事

第13回いけばなインターナショナル世界大会
4月25日~4月28日 996名

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム
(STSフォーラム) 第22回年次総会
10月5日~10月7日 1,500名

SYMBOL OF MUSIC AWARDS JAPAN 2025
-A Tribute to YMO-
5月20日 1,500名

第58回日本薬剤師会学術大会
10月12日~10月13日 5,015名

世界超音波医学会2025・
第98回日本超音波医学会学術集会
5月30日~6月1日 5,874名

第15回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会・
第49回日本口蓋裂学会総会・学術集会
10月20日~10月24日 2,500名

第62回日本リハビリテーション医学会学術集会
6月12日~6月14日 3,446名

第98回日本生化学会大会
11月3日~11月5日 3,471名

第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会
8月22日~8月23日 3,411名

第40回京都賞
11月10日~11月11日 1,800名

第15回国際先天代謝異常学会
9月2日~9月6日 3,000名

Art Collaboration Kyoto 2024
11月13日~11月16日 5,000名

第1回京都会議
9月23日~9月24日 600名

京の高校生探究パートナーシップ事業
京都探究エキスポ
12月20日 1,200名

※参加者数は現地参加者数

2025年に開催された催事の一部ご紹介

第13回いけばなインターナショナル世界大会

会 期：2025年4月25日～28日

主 催 者：一般社団法人いけばなインターナショナル

参加人数：996名

参加国数：37か国

本大会は、1986年に当館で開催されて以来、実に**39年ぶりの京都開催**となり、今回は「継ぎ、繋ぐ」をテーマに、名誉総裁の**高円宮憲仁親王妃久子殿下と三笠宮彬子女王殿下のご臨席**のもと、世界37か国・地域から参加者が集い開催された。7流派（小原流、一葉式いけばな、池坊、龍生派、嵯峨御流、未生流、草月流）の家元による生け込みのデモンストレーションのほか、ガーデンパーティーやバンケット、**国内外から約300点の個性豊かな作品の展示**、京組みひもや扇子作り等の日本文化体験、生け花や皇室ゆかりの寺社を巡る京都観光ツアー等、多種多様なプログラムを通じて、各国の参加者達の親睦が図られた。



展示会場



メインホールで行われた
デモンストレーション



ガーデンパーティー

第1回京都会議

会 期：2025年9月23～24日

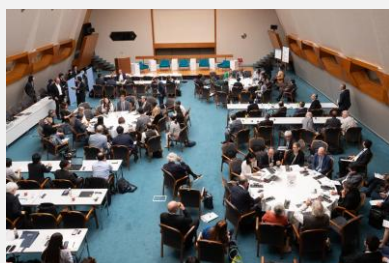
主 催 者：一般社団法人 京都哲学研究所

参加人数：約600名

参加国数：18か国

世界18か国から、哲学者・科学者・経営者・技術者・芸術家・宗教家ら約600名を迎え、人工知能（AI）時代にこそ必要となる、社会の根幹たる「価値」について議論と対話が繰り広げられた。

本会議は、その内容を国際社会に発信し、新たな議論と対話を喚起していくことで、「価値多層社会」実現に向けた国際的運動体の端緒としていくことを目的としている。なお、**第2回大会は、同じく京都で2年後に開催される予定**となっている。



ラウンドテーブル
@RoomB-1



パネルディスカッション
@Room A



ラウンドテーブル
@RoomD

第15回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会・第49回日本口蓋裂学会総会・学術集会

会期：10月20日～24日

主催者：大阪大学大学院歯学研究科(国際)、東京大学大学院医学系研究科(日本)

参加人数：約2,500名

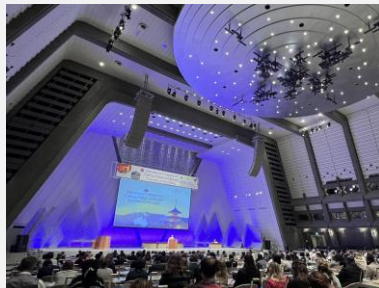
参加国数：96か国

本国際学会は、口唇裂・口蓋裂などの予防と治療の発展を促進することを目的とし、1969年の第1回大会以降、4年ごとに開催されている。当館は長年誘致活動を行ってきており、この度、誘致活動が実を結び、**念願の日本初開催**となった。

開会式には、**秋篠宮文仁皇嗣殿下・同妃紀子殿下**がご臨席され、会議には**世界96か国・地域から参加者が集い開催**された。口蓋裂治療は、様々な分野の医療従事者と研究者の連携が不可欠となっている。「多分野連携と国際連携を深める」ことで、京都から「口蓋裂治療の歴史を創る」ことを目指し、日々活発な議論と国際交流が生まれた。



企業展示



シンポジウム



ポスターセッション

科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）第22回年次総会

会期：10月5日～7日

主催者：NPO法人 STSフォーラム

参加人数：約1,500名

参加国数：80以上の国、地域、国際機関

2004年から毎年当館で開催されているSTSフォーラムに、**天皇・皇后両陛下**がご臨席された。ノーベル賞受賞者を含む世界的な科学者をはじめ、各国の科学技術大臣、企業のトップ、研究機関の責任者、大学学長、ジャーナリストなど、世界中から様々な分野のオピニオンリーダーが一堂に会し、国境や専門分野の垣根を越えて、100年から500年先の人類の未来を見据えた科学技術の課題や方向性について議論が展開されるとともに、喫緊の課題である**AIと社会の問題**について「**2030年以降のAI**」と題して活発な意見交換が交わされた。



プレナリーセッション



オープニングプレナリーセッション



フェアウェルランチ

5. 主な取り組み

(1) 当年度の催事誘致と開催サポート

2025年度は、大幅な赤字が見込まれていたが、営業面での努力により、**新規誘致で約2億円**、また**成約済み催事の開催規模・内容の拡充で約2億円**とそれぞれ売上が向上した。

当年度開催催事の誘致活動

◆ 建築の価値を活かした営業展開

当館のモダニズム建築としての歴史的・文化的価値や**意匠性の高い空間構成、周辺環境と調和した景観を付加価値として営業活動に活用**し、コンサートや商業撮影などの誘致を強化した。

また、文化庁の京都移転を契機に**芸術関連催事のリピート開催を実現**し、これを足掛かりに新規案件の獲得へと展開した。その結果、約20件の新規催事を獲得し、新規顧客層の開拓とブランド向上につながった。



◆ ユニークベニューとしての利用促進

市内ホテル等で会議プログラムを開催する案件に対しても**パーティー需要の取り込み**を図り、着席1,300名・立食2,000名規模のイベントホールと、5つのホテルから選択可能な「えらべるケータリング」サービスを提案することで利用拡大につなげた。

さらに、**花火打ち上げや日本庭園でのガーデンパーティーなど当館独自の強み**を活かし、ユニークベニューとしての価値をPRし、利用促進を図った。



◆ 国際催事の増加

日本は、円安、安定した政治情勢、治安の良さなどの点から、海外マーケットにおいて開催地として高い評価を得ており、中でも**京都は特に人気が高い**。加えて、2025年度は万博開催もあり、期中に決定される国際催事がいくつかあったことも増収要因となった。

丁寧な開催サポートと提案営業の強化

成約済みの催事については、開催当日まで丁寧な開催サポートを行うとともに、次のような提案を積極的に行った。

・規模の拡大

参加者増やプログラム拡充に伴う会場変更・追加利用の要望に対し、**最適な会場構成や運営プランを提案**し、会場の利用促進に繋がった。

・内容の充実

開催までの綿密な打合せを通じ、主催者の意向に応じた演出・装飾等を提案することで開催内容の充実を図り、機材設備等使用料の増収につながった。

これらの取り組みにより、新規催事の獲得に加え、既存催事からの増収にも寄与した。



(2) 中期的な誘致強化

国際会議・学術会議等については、催事分野ごとの特徴を捉えた誘致活動を展開し、中長期的な収益の積み上げを積極的に進めている。また、2025年度においては、当年度開催の催事も誘致し、収益向上に貢献した。

中長期の誘致活動

コンベンション案件は、「**国連・政府間会合**」、「**学術会議**」、「**海外マーケット**」の3分野に分類し、それぞれに応じた誘致戦略を展開した。主要対象である中長期案件（2026～2032年開催予定）を**36件獲得**したほか、収益改善を目的に**当年度開催案件の誘致にも注力し、7件を獲得**。2025年度の催事関連収入の約1割を占める成果となった。

◆ 国連主催会議・政府間会合

約1年にわたり継続的に働きかけてきた「気候変動に関する政府間会合」については、12月に開催都市公募が開始され、京都市が応募し、**当館も開催内容の策定等で連携した**。あわせて、数年ぶりの利用が見込まれる**政府主催会合にも働きかけ、2件の誘致活動を行った**。

◆ 学術会議

① 大型医学会の誘致活動

当館の収入基盤である学術会議の中でも、特に医学会については、**東京所在の学会事務局への定期的な訪問**に加え、大会長候補者やPCO(※)などの**キーパーソンへの継続的なアプローチを行っている**。こうした取り組みにより、顧客の最新の**ニーズを捉えた提案**によって、誘致の確度向上につなげている。

※PCO…Professional Congress Organizer。会議運営会社。

2025年度の主な誘致成功事例

開催年	会議名	規模	
2027年	世界緑内障会議	約3,000名	コロナで2021年開催が中止となったもの
2029年	世界家庭医療学会	約8,000名	日本初開催
2029年	世界集中治療医学会議	約12,000名	40年振りの日本（当館）開催

② 医学以外の学会の誘致活動

成長分野として、医工連携分野や生物学×化学×工学など**分野融合型**を**新たなターゲットとして位置付け**ている。

2025年度の主な誘致成功事例

開催年	会議名	規模
2027年	第31回世界バイオセンサー会議	約800名
2028年	第32回μTAS（化学と生命科学の微小システム）国際会議	約1,800名

◆ 海外マーケット

日本・京都の人气が高まる中、**日本支部を持たない海外団体に対しても当館が誘致主体として直接アプローチ**を行い、海外マーケットへの展開を推進した。こうした取組は国内でも先駆的なものであり、2025年度は**12件**の案件が成約に至った。

これは10年前の**5倍以上**の水準であり、学術に加え産業・教育・AI分野へと拡大している。

また、世界最大規模のMICE見本市「IMEX Frankfurt」に出展し、**国際本部や海外PCO等との商談を多数実施**。フォローアップを通じて**開催決定に至るなど具体的成果**を上げた。



IMEX Frankfurtにおける京都ブース

(3) 中長期保全計画の実施

施設の整備及び設備投資について

施設整備は、10年スパンの「中長期保全計画」を毎年見直しながら計画的な修繕・設備更新を行っている。

催事主催者および参加者の**利便性向上**と**安全性確保**の両面から、必要な工事等を実施した。

基幹設備の維持・向上としては、国への予算要求を行うとともに、受変電設備の計画的補修、防犯カメラ設備のネットワークカメラ化を行った。

また、会議施設としての機能強化として、メインホール常設プロジェクターの更新、デジタルサイネージ導入および館内Wi-Fi環境の強化を重点的に実施しつつ、館内LED化による省エネルギー化も推進した。



基幹設備の改修・更新

● 受変電設備の計画的補修

施設稼働の基幹設備である受変電設備の改修については、以前より国に予算要求を行っているところであり、大規模事業となるため、ニューホール拡張後の予算化を要望している。

当館で国工事による改修までの期間において、施設の安定運営を目的に定期点検及び更新・補修を行っており、特に2023年、2024年は計画的な大規模補修を実施した。本年以降は定期点検の結果に基づき、必要箇所の更新を行っており、継続的な設備管理に取り組んでいる。



当館の基幹となる受変電設備

● 特定天井改修工事の予算要求

2011年の建築基準法施行令改正により、2014年以降、天井高さ6m超かつ面積200㎡超の吊り天井は「特定天井」として耐震補強等の対応が求められている。当館においても該当する会場について、安全確保の観点から改修に向けた国への予算要求を継続して行っている。

2023年にアネックスホールの特定天井改修に係る設計予算が認められ、以降設計業務が進行した。その後の2025年度は改修に向けた具体的な準備を進めた。今後も引き続き、その他の各会場の特定天井改修について国への要求を行い、計画的な安全対策の推進に努めていく。

● 防犯カメラシステムの完全ネットワーク化

当館の防犯カメラ設備は2020年導入のネットワークカメラと1995年導入のアナログカメラ機器が混在していた。今回の改修で、アナログカメラ本体及び配線を全てネットワーク化することで、館内の防犯カメラ123台全てがデジタル運用可能となった。これにより、防犯・防災体制の強化を図るとともに、映像確認における視聴環境の向上を実現した。

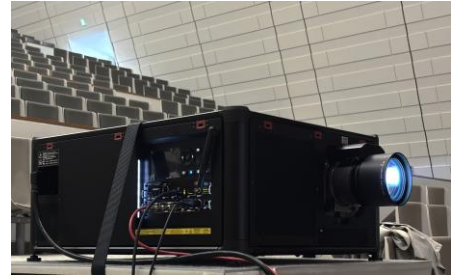


防犯カメラ設備すべてのネットワーク化

会議施設としての機能強化

●メインホール常設プロジェクター更新

利用者のニーズに応え、使用頻度の高いメインホールの常設プロジェクターを高輝度・高解像度の最新仕様のものに更新。これにより明るさは33,000ルーメン、解像度は4k対応となった。



高輝度・高解像度のプロジェクター

●ロビー各所のデジタルサイネージ設置

正面ロビーおよび各会場前にデジタルサイネージを設置し誘導標示や会場前標示のデジタル化を図った。これにより、従来の使い捨て型看板の使用削減が見込まれ、環境負荷に配慮した催事運営が可能となり、サステナビリティへの関心が高い顧客ニーズにも応える利用環境の提供につながっている。



デジタルサイネージによる誘導標示

●館内Wi-Fi環境の強化

館内ネットワーク設備の改修を2024年から継続実施しており、2025年度を含めた更新工事により、端末の同時接続可能台数及び通信速度の大幅な改善が行われた。これにより通信キャパシティが倍増し、来館者の多い大型催事でも快適な通信環境を提供可能になった。



大型催事でも快適な通信環境に

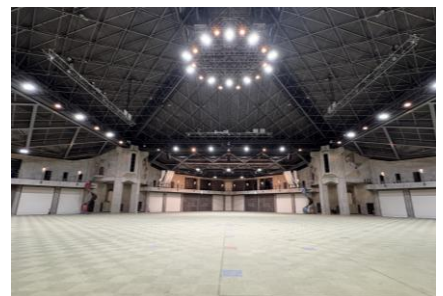
省エネルギー化への対応

●館内照明LED化の継続実施

2022年から継続的に実施している館内照明のLED化について、特定天井改修工事を伴う会議場内分については、現在国に対し改修を要望している。

当法人実施分としては、ロビーを中心とした館内各所の更新を進めており、本年度はイベントホール内の照明設備をLED化した。これにより、ホール内の照度向上による利用環境改善を図るとともに、省エネルギー化を実現した。

今後も2037年の計画完了を目標に、低エネルギー化及び維持管理費の低減を見据え、計画的にLED化を推進していく。



LED化で利用環境改善と省エネを図る

(4) 法人運営について

メディアへの広報

当館の建築的魅力の発信や自主企画事業の実施により、2025年度はメディア露出の機会が増加した。地元の京都新聞、KBS、NHK京都を中心に10件以上の取材を受けるなど、広報効果の拡大につながった。

自主企画事業の充実化

地域の方々により愛される国際会館を目指して、内容の充実化を行った。収益目標の設定のもと企画運営を行い来場者数は約50,000人（OPENDAY来場者含む）を超え、当館の認知向上に寄与した。さらに、自主企画への来場を契機として催事利用につながる事例も見られた。

● 乾杯の夕べ2025



例年2日間開催のイベントを本年度は3日間開催。合計で約5,400名の来場を得た。

● CandleLightコンサート



これまで例の少ないコンサート系企画。追加公演も含め1,000名以上が来場。

● 宝松庵茶会（春・秋）



お茶室「宝松庵」を利用し、年2回実施。各300～400名の来場があった。

外部連携の強化

主にイベントの共催などを通じて、外部団体との連携を強化した。集客・広報・コンテンツ等に強みを持つ団体との連携で、より充実した企画を実施することが可能となった。

● 京都 大恐竜博



京都新聞社と共催
約30,000人を集める

● お城EXPO スピンオフコンサート



パシフィコ横浜と共催
東京都交響楽団を招聘

● 京都モダン建築祭



「京都モダン建築祭」に特別協力
1日で3,000人以上を集める

● 国連創設80周年記念・国立京都国際会館開館60周年イベント 『国連と日本の未来～京都から世界平和を願って～』

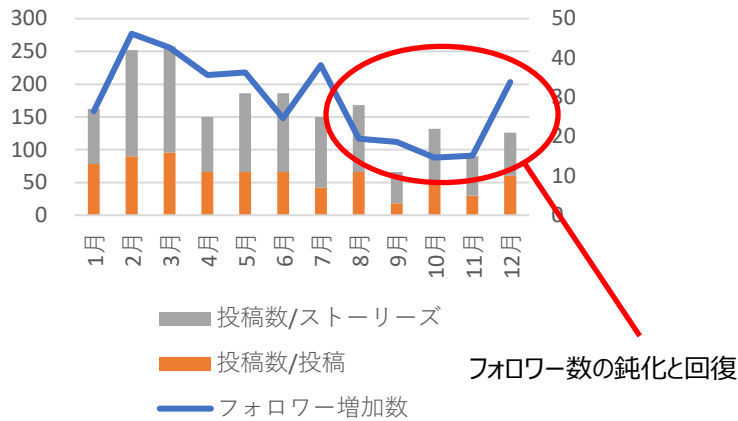
日本国際連合協会京都本部との共同主催により、昨今の国際情勢における国連の役割などに関する基調講演のほか、「若者からのメッセージ」として高校生・大学生による、社会課題に対するプレゼンテーションを行った。



SNS発信の工夫～インスタグラムフォロワーは7,500以上へ～

昨年度末の約5,500フォロワーから、本年末には7,500フォロワーを達成した。本年度後半にフォロワー数の増加が鈍化した際も、写真やコメントに統一感を持たせるなどの工夫を重ねながら運用中。

インスタグラムフォロワー増加数
と投稿数



投稿写真の雰囲気・表現スタイルを統一

国立京都国際会館イラストMAPの作成

一般向けのパンフレットとして、「画文家」として活躍する宮沢洋さん（元日経アーキテクチャ編集長）に依頼し、建築初心者にも分かり易く親しみやすいテイストの館内MAPを作成した。



展示会への出展

パシフィコ横浜で毎年開催されている「お城EXPO」の特別参加枠を得ることができたため、当館及び京都の関東方面での認知度向上を企図して出展を実施した。本出展に関しては、京都市内で開催されるイベントである「LIGHT CYCLES KYOTO」、「寛永行幸四百年祭」と協働で行った。当館のイラストMAPを2,500部以上配布。



内部統制・コンプライアンス

●監査について

2024年度決算にかかる監査を2025年2月28日に実施、2025年度事業における期中監査を同年7月28日に実施した。

また、外部の監査法人による任意の監査を2025年2月12日に実施した。

●調達について

調達規程に基づき、調達審査委員会を8回実施し14件の調達について審議にした。

各委員会において、妥当性及び経済性の観点から審査を行った。

防災・安全管理

●防火・防災委員会の実施

2025年6月及び12月に防火・防災委員会を実施し、それぞれ消防用設備等の点検結果の報告や、職員の救命講習の受講状況の確認を行った。

●主催者と合同による避難誘導訓練の実施

当館「自衛消防隊」と、リピーター顧客である「STSフォーラム」の事務局との合同での災害発生を想定した避難誘導訓練を実施した。外国人を含む参加者多数の国際会議開催中を想定し、英語での避難誘導も含めた訓練を行った。災害等の発生時における主催者・参加者の安心安全のために、定期的な訓練に引き続き努めていく。



コラム

日本庭園の魅力発信と親しみやすい国際会館のアピール

【新たに譲り受けたコブハクチョウ3羽の名前を募集】

当館の庭園「幸ヶ池」で飼育している白鳥「サチオ」（雄）に加え彦根城より新たに3羽のコブハクチョウを譲り受けそれぞれの名前を一般の方から募集した。

応募は66件あり、その中から雌の2羽が「アカネ」「翠(ミドリ)」雄の1羽が「琥珀(コハク)」と命名された。

計4羽となった白鳥は一般開放日「Open Day」などで見ることができ、来館者に親しまれている。



アカネ

メス♀／2歳
足環：赤



琥珀

オス♂／2歳
足環：白



**ミドリ
翠**

メス♀／2歳
足環：青



II 法人の概況

1. 法人概要

(1) 設立年月日

財団設立 1966年（昭和41年）1月31日

開館 1966年（昭和41年）5月21日

公益法人への移行 2011年（平成23年）3月25日

(2) 定款に定める目的

国有の会議場施設の管理の委託等に関する特別措置法に基づき管理の委託を受けた国有の会議場施設を適切に管理し、効率的に運用することにより、国際相互理解を促進し、学術、科学技術、文化等の振興及び地球環境の保全等に寄与することを目的とします。

(3) 定款に定める事業内容

- 1) 政府又は政府間機関による国際会議、学術・科学技術会議等の誘致及び運営事業
- 2) 国際交流と日本文化の普及事業
- 3) 国立京都国際会館の施設管理事業
- 4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(4) 所轄官庁に関する事項

内閣府

(5) 主たる事務所の状況

主たる事務所：京都府京都市左京区岩倉大鷲町422番地

2.理事会及び評議員会等に関する事項

(1) 理事会及び役員に関する事項

①理事会

会議の区分	会議の日時・場所	会議の目的事項
第121回理事会	2025年3月6日 午前11時00分～午前12時00分 当館Room C-2	第1号議案 2024年度事業報告書（案）及び決算（案）の件 第2号議案 積立金の件 第3号議案 第35回評議員会開催招集の件
第122回理事会	2025年12月11日 午後1時00分～午後2時00分 当館Room D	第1号議案 2026年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）の件 第2号議案 積立金取り崩しの件 第3号議案 給与規則改定（案）の件 第4号議案 常任理事選定の件 第5号議案 常任理事に対する役員報酬及び退職金の件 第6号議案 相談役委嘱の件

②役員の異動について

氏名	異動年月日	氏名	異動年月日
上村 多恵子	2025年3月21日 重任	塚本 稔	2025年3月21日 重任
藤崎 一郎	2025年3月21日 重任		2025年5月18日 退任
堀木 エリ子	2025年3月21日 重任	内田 俊一	2025年12月31日 退任
堀場 厚	2025年3月21日 重任		
湊 長博	2025年3月21日 重任		
増田 優一	2025年12月11日 新任		
村上 圭子	2025年12月11日 新任		

③役員氏名

※理事長、副理事長、常任理事、理事、監事の順に五十音順

役職名	氏名	役職名	氏名
理事長	明石 康	理事	増田 優一
副理事長	村田 純一	理事	松井 孝治
常任理事	内田 俊一	理事	湊 長博
理事	上村 多恵子	理事	村上 圭子
理事	西脇 隆俊	理事	山極 壽一
理事	藤崎 一郎	監事	高津 靖史
理事	堀木 エリ子	監事	彦惣 弘
理事	堀場 厚		

理事長1名、副理事長1名、常任理事1名、理事10名、監事2名（2025年12月末日現在）

(2) 評議員会及び評議員に関する事項

①評議員会

会議の区分	会議の日時・場所	会議の目的事項
第35回評議員会	2025年3月21日 午前11時00分～午前12時00分 当館Room A	第1号議案 理事選任の件 第2号議案 2024年度決算（案）の件
臨時評議員会	2025年12月11日 午前11時00分～午前12時00分 当館Room D	第1号議案 （新任）理事・評議員選任の件 第2号議案 （新任）役員等候補選出委員選任の件 第3号議案 評議員会運営規則一部改正の件

②評議員の異動について

氏名	異動年月日
富森 浩治	2025年12月11日 新任
服部 重彦	2025年7月31日 退任
廣瀬 茂夫	2025年5月15日 退任

③評議員名簿

※五十音順

役職名	氏名	役職名	氏名
評議員	阿南 史代	評議員	齊藤 修
評議員	池坊 専好	評議員	酒井 伸一
評議員	石毛 博行	評議員	鈴木 一弥
評議員	岩井 一宏	評議員	千 容子
評議員	内田 隆	評議員	手嶋 龍一
評議員	内海 善雄	評議員	寺島 実郎
評議員	岡田 憲和	評議員	富森 浩治
評議員	小倉 和夫	評議員	中尾 一和
評議員	柏原 康夫	評議員	百嶋 計
評議員	蒲生 篤実	評議員	三木町 宣行
評議員	久保 俊一	評議員	吉村 彰彦

評議員22名（2025年12月末日現在）

(3) 役員等候補選出委員会及び委員に関する事項

①役員等候補選出委員会

区分	日時・場所	会議の目的事項
第17回役員等候補選出委員会	2025年2月7日 午後2時～午後3時 当館Room 101	理事候補選出の件
第18回役員等候補選出委員会	2025年11月7日 午後2時～午後3時 当館Room 101	理事・評議員の候補者選出の件

②委員の異動について

氏名	異動年月日
久保 俊一	2025年12月11日 新任
百嶋 計	2025年12月11日 新任
服部 重彦	2025年7月31日 退任

③委員氏名

※五十音順

役職名	氏名
委員	池坊 専好
委員	岡田 憲和
委員	久保 俊一
委員	齊藤 修
委員	鈴木 一弥
委員	百嶋 計
委員	吉村 彰彦

委員7名（2025年12月末日現在）

Ⅲ 法人管理

公益1：政府または政府間機関による国際会議、学術・科学技術会議等の誘致、運営及び会議場施設の管理に関する事業

2025年度開催件数：111件（内訳：国内78件、国際33件）

天皇皇后両陛下ご臨席の「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム（STSフォーラム）第22回年次総会」や、秋篠宮文仁皇嗣殿下・同妃紀子殿下ご臨席の「第15回国際口蓋裂・頭蓋顔面異常学会・第49回日本口蓋裂学会総会・学術集会」をはじめ、注目度の高い催事が多数開催された。

国連主催会議・政府間会合などの都市を挙げた誘致活動に置いて行政と連携を推進した。

収益1：公益目的事業に該当しないその他の催事に関する事業

2025年度開催件数：94件（内訳：国内84件、国際10件）

当館のモダニズム建築としての歴史的・文化的価値や意匠性の高い空間構成、周辺環境と調和した景観を付加価値として営業活動に活用し、コンサートや商業撮影などの誘致を強化した。

また、文化庁の京都移転を契機に芸術関連催事のレポート開催を実現し、これを足掛かりに新規案件の獲得へと展開した。

収益2：飲食・宿泊および売店に関する事業

会議参加者の利便性向上のため飲食店舗、宴会場及び宿泊施設を当会館内に設置し、運営委託事業者と連携し、効率的な事業推進に努めている。

収益3：有料駐車場及び地下鉄連絡通路広告に関する事業

会館利用者のための有料駐車場や、会議参加者のための地下連絡通路の広告掲載スペースの収入を得て、施設の維持管理費用の一部を賄っている。

収益4：国立京都国際会館の魅力発信に関する事業

自主企画として、夏季の恒例となっている「乾杯の夕べ」を2025年度も開催。本年は初めて3日間開催とし、例年よりも多くの来場者で賑わった。また、春・秋に開催した「宝松庵茶会」は各回300名を超える参加があった。

正味財産

(1) 指定正味財産

① 設立時基本財産

(単位：円)

区分	金額	摘要
満期保有目的債券	100,000,000	
定期預金	257,950,000	
計	375,950,000	

※寄付者の詳細は以下 (ア) ~ (イ) の通りである。

(単位：円)

寄付者名	金額
(ア) 地方公共団体	60,000,000
(イ) 民間団体等	315,950,000
計	375,950,000

(ア) 地方公共団体

(単位：円)

寄付者名	金額
京都市	30,000,000
京都府	10,000,000
大阪市	7,500,000
大阪府	5,000,000
神戸市	2,500,000
兵庫県	1,000,000
滋賀県	1,000,000
奈良県	1,000,000
大津市	500,000
奈良市	500,000
和歌山県	500,000
和歌山市	500,000
計	60,000,000

(イ) 民間団体等

(単位：円)

寄付者名	金額	寄付者名	金額	寄付者名	金額
関西電力(株)	30,000,000	(株)島津製作所	2,000,000	中央信託銀行(株)	500,000
大阪瓦斯(株)	20,000,000	日本電池(株)	2,000,000	(株)国際観光会館	500,000
松下電器産業(株)	20,000,000	(財)不審庵	2,000,000	(株)滋賀銀行	500,000
(株)住友銀行	15,000,000	(財)今日庵	2,000,000	(株)丸正	500,000
(株)三和銀行	15,000,000	オムロン(株)	1,500,000	(株)京都センチュリーホテル	200,000
(株)大和銀行	15,000,000	三菱信託銀行(株)	1,500,000	(株)善田昌運堂	100,000
阪急電鉄(株)	10,000,000	三井信託銀行(株)	1,500,000	奥田連峯堂	100,000
京阪電気鉄道(株)	10,000,000	住友信託銀行(株)	1,500,000	山中商会京都(株)	100,000
近畿日本鉄道(株)	10,000,000	(株)高島屋	1,500,000	(株)横山	100,000
日立造船(株)	10,000,000	帝人(株)	1,000,000	大森欣次郎	100,000
住友金属工業(株)	10,000,000	日新電機(株)	1,000,000	計	315,950,000
(株)クボタ	10,000,000	タキイ種苗(株)	1,000,000		
住友化学工業(株)	8,000,000	吉忠(株)	1,000,000		
日本生命保険(相)	8,000,000	京都信用金庫	1,000,000		
(株)大林組	5,000,000	(株)ワコール	1,000,000		
武田薬品工業(株)	5,000,000	中林仁良	1,000,000		
(株)竹中工務店	5,000,000	(株)都ホテル	1,000,000		
住友生命保険(相)	5,000,000	村田機械(株)	1,000,000		
住友電気工業(株)	5,000,000	ニチコン(株)	1,000,000		
日本板硝子(株)	5,000,000	安田信託銀行(株)	1,000,000		
旭化成工業(株)	5,000,000	東洋信託銀行(株)	1,000,000		
大成建設(株)大阪支店	5,000,000	池坊専永	750,000		
(株)京都新聞社	5,000,000	(株)京都ホテル	500,000		
宝酒造(株)	5,000,000	ヤマサン(株)	500,000		
(株)大丸	3,500,000	(株)醸造報知新聞社	500,000		
南海電気鉄道(株)	3,000,000	キンシ正宗(株)	500,000		
三洋電機(株)	3,000,000	千切屋(株)	500,000		
東洋紡績(株)	3,000,000	京料理(株)	500,000		
サントリー(株)	3,000,000	(株)千總	500,000		
阪神電気鉄道(株)	3,000,000	京都中央信用金庫	500,000		
(株)京都銀行	3,000,000	(株)藤井大丸	500,000		
月桂冠(株)	2,500,000	千吉(株)	500,000		
(株)クラレ	2,000,000	京福電気鉄道(株)	500,000		
伊藤忠商事(株)	2,000,000	荒川(株)	500,000		
丸紅(株)	2,000,000	京都青果卸売人協会	500,000		
日本新薬(株)	2,000,000	京都みやこ信用金庫	500,000		
日本レース(株)	2,000,000	(株)比叡山ホテル	500,000		
第一工業製薬(株)	2,000,000	相互タクシー(株)	500,000		